

## 商学部協定校留学 帰国報告書

- ※ 商学部の協定校留学を終えた学生は、帰国後3か月以内に帰国報告書を商学部事務室に提出するものとします。
- ※ 報告事項は下記の1～7を参考にし、必要に応じて項目を加除し、この文書（Word ファイル）に直接書き込んで作成してください。ファイルと印刷原稿一部を提出してください。字数は自由ですが、全体で3000～4000字程度を目安とします。添付できる資料があれば添付してください。提出物は返却しませんので、必ずコピーを手元に保存してください。
- ※ 報告書（印刷原稿）は商学部の学生、教職員が閲覧できるものとします。商学部の協定校留学制度の改善に役立て、留学を希望する学生への情報提供を行うことが目的です。
- ※ 報告書の一部（「6. 商学部学生へのメッセージ」）は、学部ホームページに公開しますが、その際は報告者の許諾を得ることとします。

（商学部国際交流委員会）

|             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 留学先協定校名     | カーディフ大学 Cardiff University |
| 留学者氏名       | 島田 太輔                      |
| 留学期間        | 2010年9月～2011年6月            |
| 出発時の学年・組・番号 | 4年19組71番                   |
| 所属コース       | アプライド・エレクトロニクス             |
| 本報告書の提出日    | 2011年11月17日                |

1. 出発前の準備（留学の目的と学習計画、入学許可申請、外国語能力、留学費用、奨学金、健康保険・旅行保険、ビザなど）
2. 協定校での諸手続き
3. 宿舎と日常生活
4. 協定校のカリキュラム・履修した授業、課外活動、留学の成果
5. 帰国準備と帰国後の手続き
6. 商学部学生へのメッセージ（400～600字程度）

学部 HP への掲載を            許可します    /    許可しません  
（許可いただける場合は、掲載可能な写真等ありましたら、ご提供ください）

7. その他

商学部協定校留学 帰国報告書

4年19組71番 島田 太輔

## 1. 出発前準備

### ◇ 留学の目的と学習計画

以下は明治大学に提出したものです。

私は明治大学でアプライド・エコノミックコースに所属しており、ミクロ・マクロ経済学を中心とした国際経済学を学んできました。経済学は歴史の中で長年培われたモデルが多数存在し、それらは数式を通して世界共通で理解できるツールだと感じています。本学で養ってきた知識をカーディフ大学で活かすためにも、**Macro and Microeconomics, Contemporary Economic issues, Financial Markets and Institutions**などを専攻したいと思います。イギリスはケインズが生まれた国であり、欧州随一の金融センターでもあります。そのような歴史的な背景を持つ国で経済を学ぶことは、経済についてきっと違った見方を可能にしてくれると思います。又、カーディフには多数の日系企業が進出していることもあり、カーディフ大学では日本学の研究が進んでいます。**Modern Japanese Society, Japanese Management System**などの授業では日本で生まれ育った者としてクラスメートに日本の本当の姿を説明するとともに、彼らから見た日本の良い点・悪い点を認識し、積極的に交流を図っていきます。本学では国際交流サークル、ゼミナール、授業と英語で行われるものを積極的に取ってきました。毎回自分の意図したことが伝わらず、歯痒い思いをしていましたが、その分心から通じ合ったときの気持ちは忘れられません。留学生は日本が好きで、私たちより熱心に授業を聞いています。また、海の向こうには全く日本と異なった美しい風景、文化が広がっていることを教えてくれます。彼らの存在はいつも私にモチベーションを与えてくれました。英語は言葉の通じない韓国、中国、ヨーロッパ、中東などの様々な背景をもつ友達との交流を可能にさせてくれました。英語をただ話すことを目的とせず、内容を伴った、もっと日本を知ってもらえるように発信手段として使いこなすことが私の目標であります。文化的な要因は、そこで生きてきた人々の行動に、そして組織の在り方、コミュニケーション、商慣習などにも影響を与えます。またそうした差異はビジネスチャンスを生む好機になります。経済、文化などを含めた人の交流の一端を学ぶことが明治大学商学部とカーディフ大学ビジネススクールで身につけたい私のテーマです。以上の経験は、日本企業がますます海外市場に積極的に挑戦し、一国の金融リスクが世界に影響を与えるといった昨今の世界経済を生き抜く中で大いに生きてくると信じています。帰国後の進路では、金融、商社、メーカーなどの業界で海外進出をしている、あるいは目指す企業ために尽力したいと思っています。

#### ◇ 入学許可申請

商学部の募集案内に従い、志望動機、ダブルコアをしていた二人の先生からの推薦状、英語の成績書（TOEIC, TOEFL 等）を揃えて提出しました。入学許可がカーディフ大学から降りるのは、6月以降だったと思います。私の場合、3年生の後期に志望届けを出し、並行して企業の説明会、就職課主催のセミナーに参加していましたが、4年生に入っても確実に留学できるという保証がなかったので不安でした。

#### ◇ 外国語能力

私の留学前の英語力（TOEIC 790、TOEFL 74）は決して自慢できるものではありませんでした。ただ、一年生からの国際交流サークルや英語のみのゼミを履修していたので、英語には抵抗を感じていませんでした。カーディフ大学側が掲げている TOEFL 90点は、かなりレベルが高く、他大の日本人留学生8人中1人がクリア出来ている程度だったと思います。特に TOEFL は TOEIC にはないライティングとスピーキングがあり、点数を短期間で上げるのは中々難しいものがあります。

#### ◇ 留学費用

費用はおおよそ130万（£1 = ¥137）でした。

#### ◇ 奨学金

私の場合は日本学生支援機構の第二種の海外留学生向けを利用し、大学からの補助金、父母会からの助成金を頂きました。（他大の友人が教えてくれた所によると、学生支援機構の中には、給付型の奨学金もあるそうです。）

#### ◇ 健康保険・旅行保険

三井住友海上の留学生向けのパックに、出国日から予想帰国日までの日数を計算し、加入しました。

#### ◇ ビザ

英国ビザの取得は年々厳しくなっています。学生の場合は、Tier4 というカテゴリーのビザを取るようになります。必要なものは、インターネット上で印刷した書類、パスポート、CAS と呼ばれる大学からの入学許可書、英語の成績証明の原本、Maintenance of Funds と呼ばれる資金証明書類、奨学金を貰っている人はその証明書類になります。

\*ここで重要なのは、成績証明には必ず原本が必要とのことなので、大学の入学申請をした際に送付した原本を緊急で送り返してもらったこと。また、資金証明には約9カ月分の生活費が銀行口座に一月間保管していることを証明するのですが、銀行の通帳を翻訳会社に持っていき、英語の書類を作成してもらいました。最後に盲点になると

と思いますが、奨学金受給を英語で証明しなくてはならないので、日本学生支援機構に連絡し、作成して貰う必要がありました。

## 2. 協定校での諸手続き

ビザ手続きと共に夏休みに並行して行うのが、寮の手配になります。カーディフ市内には国内最大規模を誇る寮が点在しています。シティセンター、ビジネススクールに近いのか、スーパーや飲食店はあるのか、設備と金額はどうかを吟味し、第四希望くらいまで決めます。基本的には、日本に居る際の手続き方法はカーディフ大学のホームページ上、また E メールで行います。

いざ大学に着き、授業が始まるまでの期間に行うことは、1.学生書を作る、2.銀行口座を開くこと、3.GP (General Practitioner,一般開業医) に登録すること、4.授業履修を立て、登録することです。

各々について、初回の留学生向けのレクチャーを受けるので安心して下さい、ただ始めの頃は英語が聞き取れないので不安に思うことが多々あります。そして、厄介なのが学生カードを作成し、**Bank statements** を受け取り、口座を開設するまでです。当日は **Student Union** にかんりの行列が出来ていてかなり時間がかかりました。**Bank statement** とは銀行を開く際に学校側が交付してくれる証明書のことで、カーディフにある銀行の数だけくれます。後は、銀行への加入条件、その他利便性 (デビットカードの発行可など) を考慮し、銀行に行き、口座を作ります。同様に、当初はどの銀行も混雑することが予想されます。

\*日本人の友人の中には、日本のシティバンクの口座から ATM で引き落とししているものもありました。また、日本の家族から、カーディフの口座に送金する際には、国際口座番号が必要になります。

## 3. 宿舎と日常生活

私の宿舎 (**Talybont South**) は大型スーパー、小型スーパーに近く、ビジネススクールへは15分くらい、学生会館へは20分、シティセンターへは30分の立地にありました。また、裏地には、広大なビュートパークと小川があり、散歩や運動など行うので最適でした。4階建てで各階にはフラットが二つあり、その各々に共同キッチンと4部屋がという間取りになっています。**Talybont North/South** は比較的に入生が多く、日常的な騒音や朝方までのパーティーなど中々受け入れにくいものがありました。キッチンの使い方が汚いことから、共同責任で罰金を支払うはめになったのは数えきれません。

\*注意したい点は、息抜きで買い物をする、旅行でバス・鉄道を使う際、パブに飲みに行

きクラブで踊る際にはだいたいシティセンターに近い場所が多いので、寮までの帰り道が遠いこと。またビジネススクールには割と近いものの、メインキャンパス、学生会館で行われる授業、行事が意外に多かったです。

#### 4. 協定校カリキュラム・履修した授業、課外活動、留学の成果

|                  | <b>Monday</b>  | <b>Tuesday</b>                                     | <b>Wednesday</b>   | <b>Thursday</b>                                     | <b>Friday</b>  |
|------------------|--|--|--|---|--|
| <b>0900~0950</b> | <b>Macro economics</b><br><b>Micro economics</b>           | <b>Macro</b><br><b>Economics</b>                   | <b>International</b><br><b>economics</b><br><b>History</b> |   | <b>Macro economics</b><br><b>Microeconomics</b><br><b>Tutorial</b> |
| <b>1000~1050</b> |  |  | <b>Tutorial</b>  | <b>Modern</b><br><b>Japanese</b><br><b>History</b>  |  |
| <b>1110~1200</b> |  | <b>Modern</b><br><b>Japanese</b><br><b>Society</b> |  | <b>Micro</b><br><b>economics</b>                    |  |
| <b>1210~1300</b> |  |  |  |   |  |
| <b>1310~1400</b> | <b>International</b><br><b>economics</b><br><b>History</b> |  |  | <b>English</b><br><b>Academic</b><br><b>Writing</b> |  |
| <b>1410~1500</b> |  |  |  | <b>Tutorial</b>                                     |  |
| <b>1510~1600</b> |  |  |  |   |  |

カーディフ大学の授業形式は、レクチャー型とゼミのようなチュートリアル型のセットになっています。だいたい1モジュール（教科）は週に2回の50分のレクチャーと1回のチュートリアルで構成されます。

#### Macro/Micro economics (2<sup>nd</sup> grade)

マクロ・ミクロ経済学は経済学専攻の学生の必修となっています。月曜日の1限と金曜日1限はミクロ・マクロが週ごとに入れ替わります。気を付けて頂きたいのが、カーディフ大学では数学の知識がある程度要求されます。特に数列、微分、陰関数、ラグランジャン関数、(行列)などを多用します。マクロに関しては、日本の大学院一年生レベルの内容になっています。英語より数学に多くの時間を費やしました。

#### International Economic History (final grade)

主にアメリカ、ロシア、日本の三ヶ国の三様の経済発展の仕方を学んでいきます。レクチャーはパワーポインターに従って講義を聴いていきます。そして、チュートリアルでは、事前に20ページくらいの参考文献と質問集に目を通し準備し、討論して理解を深めていきます。前期、後期合わせて3回レポートを提出する義務があり、また、テストは3時間の論述形式になっています。この授業が一番の問題点で、他の授業にも影響を及んでいたため、聴講形式に変更しました。

### Modern Japanese Society (2<sup>nd</sup> grade)

日本語専攻の学生と日本人留学生によって構成され、教授は日本文化研究室所長のDr フッド先生です。前半は日本文化の幅広いトピックに関して講義を受け、以降生徒それぞれが与えられたトピックについて2回発表していきます。年末に8000字程度のレポートと後期末にインタビューテストがあります。

### English Academic Writing

基本的に、世界中から集まった留学生向けの授業で、学術的な英語の書き方から英国以外の友達を作るチャンスです。毎週宿題として新聞、雑誌の切り抜きを先生が選び、それを読み、要約と自分の意見を書いたノートを提出します。その次の週に最も多かった間違いを授業で訂正し、講義を受け、チュートリアルの終りに個人個人に添削済みのノートを先生のアドバイスとともに返却してくれます。

### 課外活動

頻繁に近くのパブ、学校内のパブで友人、先生らと交流しました。また、ヨーロッパという土地柄を利用して、格安バス・航空（イージージェット、ライアンエアー、メガバスこれら必須）、ユースホステルを利用して気軽に一人旅することも可能です。

震災の影響もあり、ジャパニーズソサイエティの仲間と協力してボランティア活動を行いました。新学期入って始めの頃にサークル紹介をしているので、どれかに参加してみるのもいいかもしれません。ジャパニーズソサイエティでは、日本映画の鑑賞、語学交換、日本食レストランに行くイベントなどありました。

やっと学校生活に慣れ始めたころに、ハロウィーンがやってきます。そこでのパーティーは基本的に全員仮装（結構凝ってる）をするので、友達をがっかりさせないために日本から何か持ってくればよかったと後悔しました。

現地に日本人会があり、そこでクリスマス会に参加し、また現地工場のソニー、パナソニックに見学する機会がありました。そこで、駐在員の方々と知り合いになるチャンスがあります。（因みに、カーディフ市内に日本人美容師さんもいます。）

そのほかにも、カーディフ市内のイベント、ロンドンでのイベント、季節ごとのイベント

が目白押しです。

#### 留学の成果

世界中に友人が出来、彼らとはフェイスブックで今も交流しています。また、ドイツ・スペイン・イタリアに旅行した経験から、英語が話せることで世界中どこでも人と交流できると自信になりました。英語の文章の読み、書きのスピードが上がったことや、日本でもBBC ラジオを聴くなど留学前とは違う自分に気付きました。また、グローバル展開をしているメーカーから内定を頂き、この経験を活かして国際的な活躍をしたいと思っています。

#### 5. 帰国準備と帰国後の手続き

10か月の留学期間はあっという間に過ぎてしまいます。イースター休暇が終わるといきなりテスト期間に突入し、そのすぐあとに寮の契約期間が切れ、帰国という形になります。最後の期間は、時間が急加速するので気を付けて下さい。私の場合はあまりに忙し過ぎたので、周りの人に十分挨拶することができませんでした。帰国の準備は、銀行口座・携帯電話の解約、引っ越しの準備、飛行機の手配ぐらいでしょうか。いらなくなったものは、友人に譲り、使えるものは次の日本人留学生のために寄付しました。また、引っ越しの業者については、ヤマト運輸に電話し、寮の前まで集配して貰いました。友人の中にはロイヤルメールでは大きさが限られるので、DHL を使っているものもいました。

#### 就職活動

私の失敗の一つは就職活動を甘く見ていたことです。6月の始めに例年ヨーロッパ最大規模のロンドンキャリアフォーラムが開かれます。私は興味本位で行って見たのですが、友人を始め周りの学生の気迫に圧倒され、ようやく火が付いた状況でした。それから、自己分析をし、履歴書の内容を練りまとめるまでにかなりの時間を要しました。ただ、十分に準備をしていればチャンスは多いでしょう。6月20日以降にマイナビ、CFNの留学生向け企業セミナーがビックサイトであり、多数の大手企業もブースを設けており、すぐに直接面接が受けられます。また、震災の影響かもしれませんが、秋採用を実施している有名企業も多数ありました。よく「グローバル人材求む」という声が声高に聞こえてきますが、現実には春採用に比べて、かなり門戸は狭められていることは間違いないです。行動的な友人は大手商社のロンドン支局に直接会う約束を取り付け、社員の方と知り合い、帰国後それを活かして就職した例もあります。帰国後にTOEICを受けるチャンスはないので、カーディフに居る間に受けておいた方がいいです。

\*私が一番後悔したことですが、留学前だけではなく、日々の忙しさに追われながらも、留学中・後のプランをしっかり立てることで2倍3倍より充実しただろうと感じました。

## 6. 商学部学生へメッセージ

「外国に住みたい、異文化に触れてみたい」といった漠然かつ純粋な気持ちを持っているならば、どんな僅かなチャンスでもぜひ挑戦してほしいと思います。僕は3年生の始めまで、留学するなんて考えていませんでした。ただ、一年生から世界で戦える、友人となれる、日本を紹介できるような人物になりたいと思っていました。明治大学では、そのような目標に沿うような授業、先生方、留学生との出会いがあり、次第に私を世界に挑戦させる気持ちにさせてくれました。留学はお金がかかる、就活に不利だと考える人がいます。確かにそれは一理あります。しかし、奨学金が貰えること、企業がグローバルな人材を求めている昨今の状況を考えて決して無理かつ悪い話では有りません。「学生の頃に留学したかった。」というのは多くの社会人の方から耳にする言葉です。今でも目を瞑れば、カーディフの街並み、旅をしたイギリス、ドイツ、スペイン、イタリアの都市とその思い出が蘇ってきます。大変な困難に会うかもしれませんが、それを乗り越えた時にきっと新しい自分に出会えます。また、世界には日本で考えていた以上に、厳しく、やさしく、未知なもので溢れていることに気付かせてくれます。留学の糧を今後活かすかどうかは個人次第ですが、少なくとも人生をより豊かにしてくれるものだと思います。